

平成30年度厚木保健福祉事務所 地域包括ケア・在宅医療推進会議 結果概要

1 日時 平成31年1月22日(火) 14:00～16:00

2 概要

(1) 居宅療養管理指導について

- 平成30年度介護保険制度改正の概要を説明後、市町村、病院、訪問看護ステーション、ケアマネージャーから報告。
- 居宅療養管理指導の推進のためには、ケアマネージャーと居宅療養管理指導を実施する事業所の連携強化が今後、一層必要となる。
- 一方、当該サービスは、保検医療機関や薬局としての届出をすると、辞退しない限りみなし指定となるため、指定事業所のうち実際にサービスを実施している事業所は7%程度である。
- 実際に居宅療養管理指導で薬剤師や栄養士のサービスを受けた家族の満足度は高い。
- 現状では、ケアマネージャーがサービス実施事業所を把握することが困難なことから、平成31年度から、保健福祉事務所が管内市町村に、居宅療養管理指導の給付実績のある事業所情報を照会し、各事業所の了解を得て、居宅介護支援事業所に人員体制等の情報を提供できるように取組むこととなった。
- この会議に、薬剤師や栄養士が参加していないので、参加してもらった方がよいのではないかと。→来年度に向けて検討する。(事務局)

(2) 認知症対策について

- 認知症初期対応チーム、認知症カフェについて、海老名市医師会、海老名市、厚木市、座間市から活動状況について報告。厚木保健福祉事務所から若年性認知症の取組みを紹介した。
- 認知症サポート医の養成が必要だが、県全体で養成講座の枠が決まり、順番があるため、郡市医師会からは数年に1人しか受講できない状況である。県医師会にも申入れをしている。(自費受講は5万円)

(3) 厚木保健福祉事務所の取組みについて

① 訪問歯科診療・口腔ケア推進の取組み

- 「訪問歯科診療・口腔ケアアンケート調査(平成29年度実施)の結果、
 - ・介護度4、5の人のうち訪問歯科診療を利用した半数以下。訪問歯科診療に全くつなげることがないケアマネージャーもいる
 - ・訪問歯科診療・口腔ケアの必要性を住民に理解してもらう必要がある
 - ・主治医から訪問歯科診療・口腔ケアを勧めるケースが少ない 等の課題がみえた。
- 平成30年度は、ケアマネージャーを対象とした訪問歯科診療・口腔ケアに関する研修会を実施するとともに、歯科医師会等からいただいた意見を踏まえ、訪問歯科診

療・口腔ケア推進のためのリーフレットを作成することとした。

- 平成31年度は、平成30年度作成したリーフレットの普及のため、ケアマネージャーを対象に研修会を開催するとともに、医科歯科連携の推進に向けて医師へのリーフレットの普及を検討していく。

②介護施設における看取り研修

- 平成30年度、厚木保健福祉事務所管内の高齢者施設（特養、有料老人ホーム、グループホーム等）のうち、看取り未実施施設について、研修を希望する5施設（厚木市3、海老名市1、座間市1）について、既に看取りを実施している施設の職員を講師とした交流研修会を実施。
- 交流研修会のアンケート結果、
 - ・ほぼすべての参加者が参考になったと回答。
 - ・取組めそうという回答が全体の43%
 - ・課題は、加算等の制度上の手続き、小規模施設では管理者支援が必要 等の課題がみえた。
- 平成31年度は、新たな看取り未実施施設への交流研修会の継続とともに、平成30年度の5施設へのアンケートの実施、希望に応じて手続き等の課題への個別支援を実施していく。

③精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築

- 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向け、平成29年度から取組を進めており、国の障害福祉計画において協議の場を平成32年までに立ち上げるようになっている。
- 今年度、厚木保健福祉事務所では、精神保健福祉関係者と2回会議を実施し、管内の精神科病院の65歳未満の長期入院患者の調査を実施。長期入院患者の半数は65歳以上であり、地域に移行する場合は、介護保険の活用も含めた対応が必要である。
- 長期入院の課題以外にも、認知症や高齢者の精神疾患に伴う相談も増えており、精神保健医療福祉が必要な高齢者の生活を地域で支えるための連携や支援体制の構築が必要である。
- 家族の中に精神疾患を抱えた者がいるが、家族は65歳未満であるため介護保険の対応ができず、地域包括支援センターで対応できないケースも少なくないので、そうしたケースにも力をいれてほしい。

厚木保健福祉事務所管内の現状と課題目指すべき方向性について

・ 後期高齢者の増加

要介護者の増加
 看取りは家族の協力がないと難しい
 在宅での死亡は変わらず、老人ホームでの看取りが増えている
 介護度の高い高齢者は施設への傾向がある
 → 有料老人ホーム等での看取りが求められる

・ 医療と介護の連携は進んでいる

病院とケアマネの連携はスムーズになってきている
 (ケアマネは病院と連携しやすくなった)
 ケアマネの主治医への苦手意識は緩和されつつある
 → ケアマネの質の向上が求められる

・ 在宅医療は各地域で少しずつ進んでいる

退院支援加算により、在宅への移行がスムーズになってきている
 訪問診療が微増し、訪問看護ステーションが増えた
 在宅医療連携拠点は、在宅歯科医療連携室が整備され、
 医科も在宅医療・介護連携支援センター(仮称)が整備される予定
 → 在宅医療の担い手等のさらなる充実が求められる

病院での死亡が
困難



自宅や施設での
看取りが増える



身近な地域での
受入れ体制の整備

目指すべき方向性

「2025年を乗り切るための医療と介護の地域包括ケア
の体制整備の推進」

2025年に向けて、身近な地域ごとの在宅医療・看取りの体制整備 各市町村と各医師会単位での地域包括ケアの推進

1 在宅医療と看取りの推進

在宅医療体制の充実
 (医科、歯科、薬剤師、訪問看護)
 ICT、在宅医療・介護連携支援セン
 ター(仮称)の整備
 看取りの訪問診療等の開始時期

2 施設看取りの充実

特別養護老人ホーム
 有料老人ホーム
 グループホーム

3 医療と介護の連携促進

小さい範囲での顔合わせの継続

4 住民への啓発

小さい単位での実施

各市町村、各医師会が協働しながら事業を推進

地域包括ケア・在宅医療推進会議によるサポート

(厚木保健福祉事務所)

平成30年度 厚木保健福祉事務所地域包括ケア・在宅医療推進会議

	区分	団体・機関名	委員	
			職名	氏名
1	医師会	厚木医師会	理事	野村 直樹
2		海老名市医師会	副会長	内山 喜一郎
3		座間市医師会	医師 (マザーホームクリニック院長)	松山 斉久
4	歯科医師会	厚木歯科医師会	理事	山口 琢央
5		海老名市歯科医師会	理事	菱沼 康一
6		座間市歯科医師会	常務理事	西澤 昭人
7	地域医療支援病院	東名厚木病院	患者総合支援センター医療福祉相談室 課長	福田 美香
8		海老名総合病院	看護副部長	矢野 明美
9		厚木市立病院	患者支援センター長	森田 里美
10	居宅介護支援員 団体	厚木医療福祉連絡会ケアマネジャー部会	役員	遠藤 貴子
11		えびなケアマネ連絡会	会長	小山 浩由
12		ざま介護支援専門員協会	代表	景山 邦彦
13	訪問看護ステーション団体	神奈川県訪問看護ステーション協議会(県央地区ブロック)	理事	滝澤 裕紀子
14	地域リハビリテーション団体	神奈川県地域リハビリテーション三団体協議会	副会長	相川 浩一
15	高齢者福祉施設団体	神奈川県高齢協厚木愛甲地区福祉施設連絡会	代表理事	山本 喜徳
16	市町村	厚木市福祉部福祉総務課	地域包括ケア推進担当課長	大野 徳一
17		海老名市保健福祉部地域包括ケア推進課	保健福祉部次長兼福祉事務所長 兼地域包括ケア推進課課長事務取扱	萩原 明美
18		座間市健康部介護保険課	課長	藤井 宏昌
19		座間市健康部医療課	課長	原 智穂
20		愛川町民生部高齢介護課	課長	小野澤 忍
21		清川村保健福祉課	課長	山田 晴久
22	保健福祉事務所	厚木保健福祉事務所	所長	長岡 正